

によぜがもん  
如是我聞

「如是我聞」は、多くの漢訳の仏教教典において冒頭の語句である。原則として仏典は、サンスクリット語（梵語）の原典がある。「如是我聞」に対応するサンスクリット語原文は「エーヴァム・マヤー・シュルタム」（*evaṃ mayā śrutam*）である。逐語訳すると、エーヴァムが「このように」、マヤーが「私によって」、シュルタムが「聞かれた」とあり、意識すると「私はこのように聞いた」という意味である。

伝説によれば、仏典の第一結集<sup>けつじゅう</sup>のとき、仏弟子のアーナンダ（阿難）が釈尊の言葉をそらんじた形式であり、以後それに倣ったものという。したがって「私」とはもともとアーナンダのことである。原始教典も大乘教典も同様の形式である。後世に教典を創作した人々は、この言葉に、釈尊の真意はこうであったはずだという思いを込めた。

サンスクリット語原文の漢訳は「如是我聞」（かくの如く我聞けり）あるいは「我聞如是」（我聞くことかくの如し）が多い。だいたい 7 割くらいが「如是我聞」であり、たとえば『法華経』『観無量寿経』『阿弥陀経』などの冒頭である。

仏典の漢訳の歴史からみると、鳩摩羅什（クマラジーバ、344 年頃～413 年頃）より前の古訳では「聞如是」（聞くことかくの如し）と訳したが、鳩摩羅什は「如是我聞」と改訳し、その後は「如是我聞」が定着した。一般に、多くの訳経僧たちの漢訳仏典の中で、中国・日本に最も影響したのは鳩摩羅什の訳である。漢訳仏典には普通、鳩摩羅什訳、玄奘訳など翻訳者の個人名を冠している。しかし実際の翻訳作業は、個人ではなく、集団の分業で行われた。

飄

々

広報委員

吉岡 達生

翻訳の技術からみると「如是我聞」はサンスクリット語の直訳であり、漢文の正しい語順では「我聞如是」である。たとえば康僧鎧<sup>こうそうがい</sup>訳『無量寿経』の冒頭は「我聞如是」である（実際の翻訳は 421 年頃成立）。

また、漢訳の語句そのものは独り歩きしやすい。たとえば、ある仏典の解説書によると、「如」は真理をあらわす言葉であり、「是」は正しいということを示すとしている。サンスクリット語原文と対比すれば、漢訳のみで考えた「こじつけ」以外の何物でもない。

主要参考文献：

1. 「漢文と東アジア」金 文京  
岩波新書 1262 岩波書店 2010 年
2. 「仏教の言説戦略」橋爪大三郎  
サンガ新書 株式会社サンガ 2013 年
3. 「仏教、本当の教え」植木雅俊  
中公新書 2135 中央公論新社 2011 年
4. 「ほんとうの法華経」橋爪大三郎・植木雅俊  
ちくま新書 1145 筑摩書房 2015 年

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店  
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)  
TEL 0836 (34) 3424 FAX 0836 (34) 3090  
[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>.  
新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。